



未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち “板橋”

板橋区

面積 32.22km²
世帯数 330,151世帯
人口 574,768人
(うち外国人) 33,390人
予算 2,530億円
職員数 3,822人



産業と生活が融合するまち
区全域に印刷業や光学機器等をはじめとする都市型ものづくり産業の事業所が立地しています。



いたばし花火大会
荒川の夏の風物詩。対岸の戸田市とあわせて約15,000発の花火が夏の夜空を彩ります。



板橋Cityマラソン
フルマラソンに加え、小・中学生や車椅子の方対象のコースも設定。春本番の荒川の自然を満喫できます。



子ども家庭総合支援センター
子ども・家庭、地域の総合支援拠点として、関係機関とともに、子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の保障に努めます。

歴史・見所・名所

「板橋」という地名が史料に登場するのは古く、『延慶本平家物語』によると、治承4(1180)年に挙兵した源頼朝が「武蔵国豊島ノ上滝野川ノ板橋」に布陣したという記録が確認できます。「板橋」の地名は、明治22(1889)年の町村制実施によって町名として採用され、昭和7(1932)年に東京市板橋区が誕生しました。昭和22(1947)年に特別区となり、同年8月に練馬区を分離して現在の板橋区になっています。

8月の「いたばし花火大会」は、都内最大の尺五寸玉や、職人技が光る芸術玉などで、多くの人々を魅了しています。また、荒川河川敷内にコースを設定した「板橋Cityマラソン」は、走りやすく、制限時間が7時間と長いことから、毎年全国から多くの市民ランナーが集まる人気の大会となっています。文化面においても、「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」など、企画展において高い評価を得てきた23区初の区立美術館が令和元(2019)年にリニューアルされ、伝統と刷新が融合する美術館として親しまれています。さらに、令和3(2021)年3月に平和公園内の緑豊かな環境の中で新しく生まれ変わった中央図書館では、海外の絵本を手にとって見られる「いたばしボローニャ絵本館」を併設し、「絵本のまち」を象徴するエリアとして魅力を発信しています。

概要

区は23区の北西部に位置し、武蔵野の面影を残す赤塚の森や、広大な河川敷を有する荒川、美しい桜並木に彩られる石神井川など、豊かな自然に恵まれています。区内には東武東上線・都営三田線・JR埼京線など5本の鉄道路線が走り、主要幹線道路として中山道・川越街道・環状七号線・環状八号線・首都高速5号線などが通っています。

昭和7(1932)年当時の人口は約12万人でしたが、戦後の復興と高度成長期を経て、高島平団地の開発やマンション建設等により人口は増加し、現在では約57万人となっており、住宅都市・生活都市としての顔を持っています。

一方、商店街を中心とする商業、埼玉県境に近い赤塚地域における都市農業、荒川沿岸部等の工業が併存しており、都内有数の産業都市としての顔も持っています。都市型産業に求められる高付加価値化の実現に向け、産業ブランドの確立や区内外企業、大学、研究機関等との連携を通じ、地域経済の活性化を進めています。

その他にも、区内小学校で始めた「緑のカーテン」や、乳幼児を抱える保護者が気軽に立ち寄れる区発祥の「赤ちゃんの駅」は、民間施設を含め全国へと広がりをみせています。令和4(2022)年4月には「板橋区子ども家庭総合支援センター」を開設し、7月から児童相談所設置市となりました。妊娠・出産期からの成育歴の把握、成長段階に応じた関係機関等との連携などを強化し、全ての子どもたちが健やかで心豊かに成長できるよう、切れ目のない子育て支援の充実を図っています。また、同年5月に、国からSDGs未来都市に選定されたことを契機に、子育てのしやすさが定住を生む教育環境都市の実現に向けてさらなる事業展開を図り、持続的に発展可能なまちづくりを進めています。

主要課題

コロナ禍で減少した人口は回復傾向にあるものの、出生数の大幅な減少や、子育て世代の転出超過傾向、老年人口に占める後期高齢者割合の高まりなどを踏まえると、少子高齢社会への対策強化を急ぐ必要があります。また、公共施設・まちのインフラ等の老朽化等が進んでおり、更新時期が一斉に到来することから、計画的な更新・再整備に向けた取組みも急務となっています。さらに、近年の地球温暖化を一因とする気候危機への対応として令和4(2022)年1月に行った「板橋区ゼロカーボンシティ表明」の下、脱炭素社会の実現に向けた取組みを加速化させるなど、持続可能な社会の構築が課題となっています。

将来展望

区は、「板橋区基本構想」で掲げる将来像「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」の実現に向け、令和7(2025)年度までのアクションプログラムとして「いたばし No.1 実現プラン 2025 改訂版」(令和6(2024)年1月改訂)を推進しており、「未来を担う人づくり」「魅力あふれる元気なまちづくり」「安心・安全な環境づくり」の視点を踏まえ、これまで取り組んできた三つの重点戦略のバージョンアップに取り組んでいます。

「SDGs戦略」では、SDGs未来都市として、「誰一人取り残さない」という基本理念の下、心から安心して暮らせる安心・安全なまちの実現を、「DX戦略」では、デジタル化・オンライン化を更に進め、「新しい技術や価値が暮らしを豊かにするまち」の実現を、「ブランド戦略」では、「絵本のまち」や産業ブランドの創造と魅力発信を更に進めるとともに、大山駅・板橋駅・上板橋駅周辺及び高島平地域のまちづくりの進展により、子育て世代にも選ばれるまちとして定住化が進むまちの実現をめざしています。

令和8(2026)年度を始期とする次期板橋区基本構想・基本計画を見据えながら、積極果敢なチャレンジによる「東京で一番住みたくなるまち」の新たなステージに向けた取組みを進めていきます。



区立美術館

江戸狩野派をはじめとする近世絵画、大正から昭和初期の前衛美術、板橋区ゆかりの作家の作品などを中心に収蔵しています。イタリア・ボローニャ国際絵本原画展等の企画展が高い評価を得ています。



中央図書館・ボローニャ・ギャラリー

緑豊かな板橋区平和公園内で生まれ変わった、新しい中央図書館。

ユネスコ世界遺産に登録された「ボルティコ(柱廊)」を表現した「ボローニャ・ギャラリー」を館内に設置しています。



ゼロカーボン
いたばし2050

板橋区ゼロカーボンシティ表明に関するロゴマーク

ロゴマークは、二酸化炭素を吸い取り、消化吸収するキャラクターであり、その中央に社会の意識、個々の意識をハートで表現しています。